

カワイ 音楽教育 グレードテスト 課題の捉え方・課題例

併せて、『カワイグレードテスト受験のために[課題例集]ピアノ・音楽教育篇 音楽教育グレード改定(2023～)に対応』(カワイ出版)をご参照ください。

【実技グレードおよび筆記グレード共通】

音程、リズム、拍感を捉える能力や、無伴奏で歌う能力、弾き歌いの能力、子どもをレッスンに引き込む能力、身体活動や活動のためのピアノ演奏に関する能力、指導に関する知識など、子どもを対象としたレッスンにおいて重要であると考えられる能力を総合的に問う。

<6級>

【実技Ⅰ】

●リズムソルフェージュⅠ

記されているテンポに基づいて、正確にリズムを打つ能力や、フレーズ感を捉えて演奏する能力を問う。

(例) 次のリズムを演奏しなさい。

♩ = ca. 100



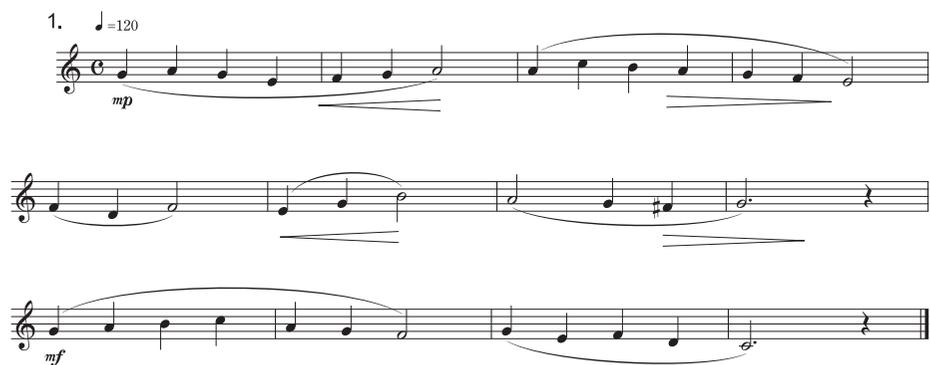
※当日の課題ではなく、例である。

●歌唱Ⅰ

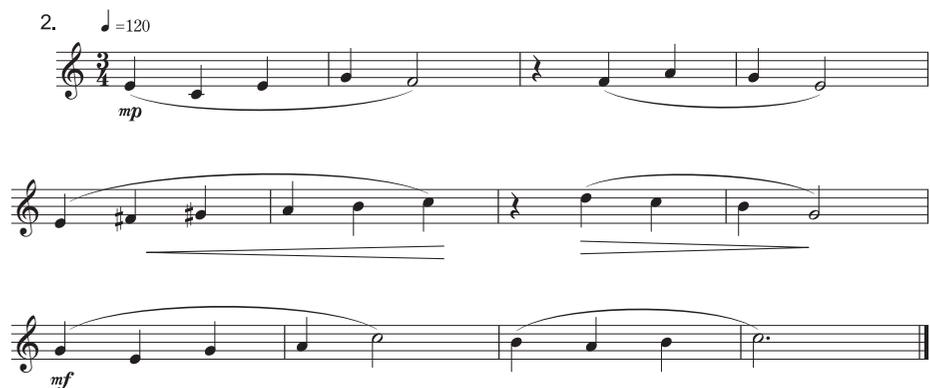
音、リズム、強弱、テンポなど、楽譜に記されているように歌唱する能力や、旋律の抑揚を捉えて歌唱する能力を問う。

課題

1. ♩ = 120



2. ♩ = 120



3. ♩=120
mf

4. ♩=120
mp

※上記の課題より、試験当日1曲が指定される。

●弾き歌いⅠ

子どもに聴かせることを想定して、音、リズム、強弱、テンポなど、楽譜に記されているように歌唱する能力や、歌詞を聞き取れるように歌唱する能力を問う。

音、リズム、強弱、テンポなど、楽譜に記されているように伴奏する能力を問う。

歌と伴奏をバランス良く演奏する能力を問う。

【実技Ⅱ】

●絵本の読み聞かせ

絵本を子どもに読み聞かせる能力（声のトーンやテンポ、絵本の持ち方など）を問う。

物語の展開に合った抑揚、トーンなどで、表情豊かに読む能力を問う。

【実技Ⅲ】

●身体活動Ⅰ

音楽の拍子や曲想を捉えてステップする能力を問う。

※課題例は省略する。

【筆記】

●ピアノ導入期の音楽レッスンに関する論述

初めてピアノを習う子ども（未就学児）に対して適切なコミュニケーションをとるための留意点や、留意点に配慮したコミュニケーションの取り方を記述する能力を問う。

初めてピアノを習う子ども（未就学児）がピアノへの興味を育むことのできる具体的な活動を考案し、記述する能力を問う。

<5級>

【実技Ⅰ】

●リズムソルフェージュⅡ

記されているテンポに基づいて、正確にリズムを打つ能力や、フレーズ感を捉えて演奏する能力を問う。

(例) 次のリズムを演奏しなさい。

♩ = ca. 100

上:手 # 3/4
下:足 # 3/4

※当日の課題ではなく、例である。

●歌唱Ⅱ

子どもを相手にすることを想定して、メロディを正しい音、リズムで歌唱する能力を問う。

子どもと一緒に活動できるテンポで、歌詞を聞き取れるように歌唱する能力を問う。

課題

1) くまさん くまさん

くまさん くまさん まわれ みぎ くまさん
くまさん りょうて を つ い て くまさん くまさん
か た あ し あ げ て くまさん くまさん さ よ う な ら

2) ひらいたひらいた

ひらいた ひらいた なんのはなが ひらいた れんげのはなが
ひらいた ひらいたと おもったら いつのまにかつ ー ー ぼんだ

※上記の課題より、試験当日1曲が指定される。

●弾き歌いⅡ（コードによる弾き歌い）

子どもに聴かせることを想定して、音、リズム、強弱、テンポなど、楽譜に記されているように歌唱する能力や、歌詞を聞き取れるように歌唱する能力を問う。

コードネームを正しく弾く能力、曲の雰囲気にあった伴奏をする能力を問う。

歌と伴奏をバランス良く演奏する能力を問う。

【実技Ⅱ】

●手や身体を使った遊び歌の実演

実際のレッスンを想定して、メロディを正しい音、リズムで歌唱する能力や、子どもと一緒に活動できるテンポで、歌詞を聞き取れるように歌唱する能力を問う。

子どもと一緒に活動できる内容を考案し、実際のレッスンに相応しい速さで、展開する能力を問う。

実際のレッスンを想定して、子どもに適切に語りかける能力を問う。

課題

1) まあるいたまご 作詞者不詳／イギリス曲

まあ る いたまご が パチンとわ れて かわい い ヒョ コが
ビョ ビョ ビョ まあ かわい い ビョ ビョ ビョ

2) 頭・肩・ひざ 作詞者・作曲者不詳

あ たま か た ひ ざ ボン ひ ざ ボン ひ ざ ボン
あ たま か た ひ ざ ボン め はな みみ くち

※上記の課題より、試験当日1曲が指定される。

【実技Ⅲ】

●身体活動Ⅱ

音楽の拍子や曲想を捉えてステップする能力を問う。

※課題例は省略する。

【筆記】

●幼児を対象とした音楽レッスンに関する論述

手や身体を使った音楽活動の意義を記述する能力を問う。

手や身体を使った音楽活動のレッスンへの取り入れ方について、具体例を挙げながら、自分の考えを記述する能力を問う。

<4級>

【実技Ⅰ】

●歌唱Ⅲ

子どもに聴かせることを想定して、音、リズム、強弱、テンポなど、楽譜に記されているように歌唱する能力や、歌詞を聞き取れるように歌唱する能力を問う。

楽曲をよく理解し、旋律の抑揚やニュアンスを捉えて歌唱する能力を問う。

ピッチが狂うことなく、最後まで安定して歌唱する能力を問う。

●弾き歌いⅢ（移調を伴う弾き歌い）

指定された調に正しく移調して、弾き歌いをする能力を問う。

子どもに聴かせることを想定して、移調した音を正しく歌唱する能力、リズム、強弱、テンポなど、楽譜に記されているように歌唱する能力や、歌詞を聞き取れるように歌唱する能力を問う。

移調した音を正しく伴奏する能力や、曲の雰囲気合った伴奏をする能力を問う。

歌と伴奏をバランス良く演奏する能力を問う。

【実技Ⅱ】

●道具を使った遊び歌の実演

実際のレッスンを想定して、安定して歌唱する能力、歌詞を聞き取れるように歌唱する能力を問う。

子どもと一緒に活動できる内容を考案し、展開する能力を問う。

道具を子どもにとって最適な状態（大きさなど）で作成し、それをスムーズに扱い、活動を展開する能力を問う。

実際のレッスンを想定して、子どもに適切に語りかける能力を問う。

【実技Ⅲ】

●活動のためのピアノⅠ

実際に活動ができる演奏（ビート、テンポ、リズム、メロディ、音の進行、アーティキュレーションなど）をする能力を問う。

豊かな和音や音楽的な旋律を創る能力を問う。

（例）次の活動を導くための音楽を演奏しなさい。また、T、S、Dの和音の機能を用いた進行を一度は含めて演奏すること。

「歩く→スキップする」

【筆記】

●音楽教育に関する論述

「あそび」の意義を記述する能力を問う。

「あそび」の意義を生かすために有効な音楽教育の方法について、具体例を挙げながら自分の考えを記述する能力を問う。

<3級>

【実技Ⅰ・Ⅱ】

●模擬レッスン

- ・模擬レッスンの実践

対象となる子どもたちにとって最適なレッスンを行う能力を問う。

(語りかける速さ、明瞭さ、歌唱や演奏の音楽性、展開の速さなど)

子どもたちが容易に理解できるストーリー性のあるレッスンを展開する能力を問う。

- ・レッスンプラン

適切なレッスンのテーマや音楽的な学習のねらいを設定する能力を問う。

対象となる子どもたちが一緒に活動できる内容を考案する能力を問う。

【実技Ⅲ】

●活動のためのピアノⅡ

実際に活動ができる演奏（ビート、テンポ、リズム、メロディ、音の進行、アーティキュレーションなど）をする能力を問う。

アゴーギクやデュナーミクを自然に行う能力を問う。

豊かな和音や音楽的な旋律を創る能力を問う。

(例) 次の活動を導くための音楽を演奏しなさい。なお、デュナーミクとアゴーギクをそれぞれ一度は変化させること。

「走る→ジャンプする→揺れる」

【筆記】

●音楽教育に関するレポート

指定図書を読んだうえで3歳児の発達の特徴について記述する能力を問う。

どのように3歳児のレッスンを行うかについて記述する能力を問う。

<レポート作成、提出要領>

1. ワープロ原稿または400字詰め原稿用紙を使用し、表紙を付けること。
2. 表紙には、提出年月日、受験番号、名前（ふりがなを併記）、所属、テーマを明記すること。
3. ワープロ等を使用する場合は、用紙のサイズはA4、用紙の向きは縦長、文字の方向は横書き、1ページの文字数を40字×30行の設定とし、ページ番号を付けること。
4. アラビア数字は、半角で記載すること。
5. 文中の引用は、「 」で囲み、出典が分かるようにすること。
(例) 「～〇〇である。」(著者名・出版年・ページ)
6. 引用文献は、著者名・文献名・出版社名・出版年・ページの順に書き、文末に列挙すること。
7. 表紙、文末の引用文献一覧を除いて、2,000字以上執筆すること。
8. 模擬レッスンの当日、作成したレポート4部を受付に提出すること。筆記試験のみを受験する場合は、申し込み後に事務局から締め切り日や提出方法について指示がある。なお提出されたレポートは返却しない。